

〈実践報告〉

米国留学準備のためのアメリカン・  
ソーシャル・スキル学習  
——語学研修生を対象としたセッションの記録——

高濱 愛・田中 共子

Learning American Social Skills in  
Preparation for Studying  
in the United States:  
A Learning Session for English Trainees

TAKAHAMA Ai and TANAKA Tomoko

The purpose of this study is to analyze the effects of the American social skills learning session for English trainees based on the session's dialogues and feedbacks. The authors of the paper held the session in 2008 for four Japanese university students to practice American social skills before they left for their studies in the United States. In addition to the participants and authors, the session included an American exchange student and two Japanese assistants who had obtained English training in the United States. Through role plays, they learned four American social skills such as self-introduction, making friends, negotiation, and communicating with language handicap. The results revealed that the participants gradually became used to the learning style of the session. Next, it was found that in order to improve their skills, they came up with various ideas of role-plays. This indicated that their performances became more natural and their impressions, more favorable. Lastly, it was also concluded that joining the session provided the students an opportunity for virtual simulation before they left for the United States.

キーワード: 米国留学、ソーシャル・スキル、語学研修生、ロールプレイ

## 【序】

古田らは「実際のコミュニケーション活動においては、言語メッセージと並んで非言語メッセージも重要な役割を果たす」と述べている(古田ら、1987、82頁)。すなわちコミュニケーション場面では、発話の内容と態度を組み合わせた総合的なメッセージ交換が行われる。しかし外国語でのコミュニケーションとなると、言語表現を習う場は多いが、非言語表現を含めた表現の総体は、体験的習得に期待されがちである。社会的場面での適切な行為の選択と実施は、言い回しを習っただけでは保証されない。社会的文脈を理解し、行為の適切性が判断できて、思うところが的確な言語・非言語表現に変換されて、初めて人との意思の疎通が図れる。

海外留学の前に、振る舞い方や価値観の行動文法を身につけようとしてもなかなか難しい。留学生は多くの場合、渡航後の試行錯誤の中で、自力でそのコツを探さねばならない。筆者らは、学生を海外の機関に派遣する業務を担当する立場から、日本人留学生の最大の留学先であるアメリカに焦点を当てて、文化行動の習得を視野に入れた留学準備教育をしようと考えた。

筆者らは、対人関係形成をプロセス化して、そこでの認知と行動の要領を技能化してとらえる臨床社会心理学の心理教育の手法を、留学先における対人場面でのコミュニケーションに応用してみようと着想し、アメリカン・ソーシャル・スキルの学習セッションを実施した(高濱・田中、2009a, 2009b)。その方法とは、まず留学先で有用な行動(振る舞い)や認知(物の見方や考え方)の要領を、ソーシャル・スキルとしてとらえることに始まる。ソーシャル・スキルとは、「対人関係の形成・維持・発展のために必要とされる行動」を指す(田中、1994、3頁)。ソーシャル・スキルは、社会心理学由来の概念だが(Argyle and Henderson, 1985)、これを田中(1994)はアメリカ留学中の日本人がアメリカ人と異文化間の対人関

係形成をはかる場合に適用しており、我々はこうした異文化間ソーシャル・スキルの概念を、日本人学生の留学準備教育に用いることにした。アメリカ留学では、滞在先の文化に適したソーシャル・スキルの獲得が、留学中のソーシャル・ネットワークの拡大につながり、異文化適応に肯定的な影響を与えることが示唆されている (Takahama, Nishimura & Tanaka, 2008)。

具体的には、一年弱の短期交換留学生に対人関係の開始 (初級)、大学への学習場面への対応 (中級)、アサーション (上級) を扱うセッションを実施した (高濱・田中、2009a, 2009b; 田中・高濱、2008)。アサーションとは、「自分の考えや気持ちを分かってもらうためにする自己表現 (平木、2000、98 頁)」のことで、アメリカで重視される対人行動の一つである。セッション終了時には、文化理解と対人関係形成への自信や意欲の向上、不安の低下がみられた。さらに渡航後の調査からは、留学先において習ったスキルを使用して役立てていることも確認された (高濱・田中、2009c)。

本研究では、さらに適用対象を拡大し、短期交換留学生より格段に多い語学研修生に向けて、テキストを改訂して介入を行った。語学研修は、期間の短さが魅力の一つとされ、参加者が広がっている。2011 (平成 23) 年度の概算要求では、日本人学生の海外交流の推進を目的として、ショートビジット・ショートステイ用交流経費が計上されたと、文部科学省ウェブサイトにある (2010 年 10 月 4 日閲覧)。短期の海外滞在者はさらに増加し、支援ニーズも拡大するだろう。

セッションの効果については多元的なデータを収集しており、着眼点を分割して報告してきた。先には、参加者の自己報告に焦点を絞って、セッションへの反応を整理した (高濱・田中、2010)。そのセッションは少人数制のグループ学習として行われ、4 名の学部生がアサーション (主張性) など、4 つのアメリカン・ソーシャル・スキルを学習した。振り返りの自由記述をみると、パフォーマンス改良の努力をしたこと、その向上を感じたこと、対人接触の心構えや状況の解釈が滞在先の文化にあわせて変わったことが分かった。評定値の変化からは、アサーションの文化的重要性に対する認識が高まったことが分かった。セッションにおいて、参加者の認知的及び行動的な文化学習が生じたことが示唆される。だがこの報告では学

習場面の詳細は省かれ、直後の記述と評定値のみがまとめられている。したがって本稿では続報として、略されていた対話記録に焦点を当てたい。そこからセッションのダイナミクスを読み取り、内容自体を検討したい。参加者の意欲や工夫、上達はどのような行為で表現され、何がどう評価されたのか。記録をたどって、最終的な参加者の反応がいかに生み出されたのかを考察し、セッション効果の機序とセッション構成を吟味する。

## 【方法】

### 1. セッションの設定

高濱・田中(2010)と同様に、2008年夏に日本のP大学において、2日間の連続日程でアメリカン・ソーシャル・スキル学習セッションを実施した。P大学の留学予定者のうち、セッションの参加募集に応じた者に概要を説明し、調査協力の承諾を得た。

本稿の第一・第二筆者が、セッションの講師を務めた。米国のQ大学で語学研修の経験のある女子P大学生2名が、アシスタントとして雇用された。Q大学からの女子交換留学生1名がボランティアとして参加し、ネイティブの立場から助言を行った。

### 2. セッション参加者

参加者はP大学の学部生4名で(表1)、1カ月以内にQ大学での英語研修に参加する予定であった。

表1 セッション参加者の属性

ID	性別	年齢	学年	研修予定期間	語学試験スコア
S15	男	22	4	2ヶ月	未受験
S16	女	21	3	2ヶ月	TOEIC 630
S17	女	20	3	2ヶ月	TOEIC 500
S18	女	19	2	4ヶ月	TOEIC 640

※1 この語学研修には、TOEFL等の試験の受験は義務付けられていない。

※2 過去に、1カ月以上の海外滞在経験のある者は含まれていない。

※3 欧州のR大学に短期交換留学予定のS19(男性・20歳・全スキル参加)とS20(男性・22歳・スキル1と3のみ参加)も学習の参考にと参加していた。行き先が非英語圏で教育も現地語で行われるため、米国留学予定の語学研修生より英語力が低く、留学先で必要なスキルを学ぶ他の参加者とは動機付けや学び方が異なる。部分的で消極的な参加であったため、今回の分析の対象からは除外し、記載を省略した。

※4 交換留学生を対象とした別セッションへの参加者14名のIDをS1からS14としたため、本セッション参加者のIDが、S15から始まっている。本稿は高濱・田中(2010)に記載できなかったセッションの対話記録の詳細を公開することを目的としている。そのため、高濱・田中(2010)と併せて読む読者の便宜を考えて、参加者には先と同じ記号を付した。

### 3. セッションでの学習内容

アメリカ留学に必要なソーシャル・スキルを紹介した田中(1994)から課題場面を選び、以下の4スキルを扱った。1日目は初級スキルとして、スキル1「自己紹介する・聞く態度(笑顔・アイコンタクト)」、スキル3「友人を作る」、2日目は中上級スキルとして、スキル7「交渉する」、スキル11「語学のハンディを持って話す」(表2)を学習した。

スキル選択の理由として、スキル1は留学先に到着直後から頻繁に使用すること、スキル3は留学先でのソーシャル・ネットワーク拡大のきっかけになることが挙げられる。またスキル7は未知の学外者との交渉、スキル11は契約場面で、共にアメリカで重視される主張行動を扱うため、必要性が高い。同様のソーシャル・スキル学習セッションに参加した日本人留学生が、米国留学中に現地で実際にこれらのスキルを使用したと報告しており(高濱・田中、2009c)、妥当性を備えた場面といえる。なおスキル11は、アシスタントの先輩留学生が、渡航直後に携帯電話の契約に苦勞した体験談と解決の助言を語ったことから、語学研修生にニーズが高い場面と見なして取り入れた。スキル学習の課題場面は、ニーズに対応した実践的なものにすることが必要だが、実践エピソードを伴うこれらのスキルは、高い実効性が確認されたものといえる。この場面は短期語学研修生の生活パターン、弱点、ニーズなどをよく反映しているうえ、注意を要する契約の場面として注目された。

学習の要領と内容は、バインダー式のテキストにして配布した。なお先

の高濱・田中(2009a, 2009b)は断続的な日程設定だったが、今回は2日間の連続日程であった。

表2 セッションにおける学習内容

【スキル11 語学のハンディを持って話す】	
1. 課題場面	携帯電話の契約にきましたが、相手が一方向的にまくしたててくる内容がよく分かりません。相手はサイン欄を指さして、あなたにサインするよう求めています。あなたは、留学期間中に携帯電話を使った場合のプランや料金について確認したいのですが、どうしたらいいでしょうか？
2. ポイント	相手の話を止めて、内容を確認していきましょう。
3. 解説	まず相手の英語が速すぎて聞き取れない場合は、相手が英語でまくし立ててくるのを止めましょう。そしてあなたが相手の言うことをよく分かっていないということを伝えましょう。それから、1つずつ、確認していきましょう。相手にはゆっくり話してくれるよう頼むのも、よい方法です。また、あなたが理解したことをあなたの言葉で伝えて、それで正しいかどうか相手にも尋ねてみましょう。契約内容は、よく理解してからサインすることです。そうしないとあとで思わぬトラブルになることもあります。相手は「契約内容を説明して、契約をとる」という仕事をしているのですから、あなたが理解するまで、この作業は完了しないのです。手間がかかっても、必要なことをしていると考えて、気後れせずに質問していきましょう。
4. Useful expressions	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. I am a foreigner. I can't speak English very well. Would you speak slower, please?</li> <li>b. Excuse me?</li> <li>c. Once more, please?</li> <li>d. Speak slower, please.</li> <li>e. Do you mean that...?</li> <li>f. What do you mean...?</li> <li>g. I think you said that... Is that true?</li> <li>h. You mean..., don't you?</li> <li>i. Tell me in easier words. / Can you use an easier expression?</li> <li>j. Can you summarize what you are getting at?</li> <li>k. Can you tell me what you mean by...?</li> </ul>

※スキル1、3、7は、交換留学生を対象とした別のセッション（田中・高濱、2010、2011）と同じ学習内容であるため、スキル11を例として詳細を呈示する。そのほかのスキルは同様の要領で、スキル1「大学のオリエンテーションにおける自己紹介」、スキル3「いつも同じ授業を受けている学生に自分から話しかける（対人関係の構築）」、スキル7「購入したボールペンが不良品であったため、購入先の文房具店の店員に交換か返金を求める」という課題を扱った。

#### 4. セッションの手続き

セッション実施の要領は、臨床社会心理学の認知行動療法における小集団を用いた学習手続きに即しており（高濱・田中、2009a、2009b）、行動学習のための心理学的な工夫が組み込まれている。具体的には、模倣学習（見本に倣う）、社会的強化（賞賛して行動の出現頻度を高める）、漸次的接近（少しずつ行動を完成させていく）などを使って、次第に行動を会得させていく。認知的学習（考え方の理解）と行動的学習（行動パターンの練習）によって行動レパートリーを拡充することを狙う、心理教育的セッションである。

具体的な手続きを以下に述べる。まず講師が学習方法を説明した。アサーションについては、口頭で「自分も相手も大切にしようとする自己表現のこと。自分の意見や考えを率直にその場にふさわしい方法で言ってみようとしながら、相手が同じように表現することも待つ」と説明した。課題場面を示した上で、参加者に英語で自由にロールプレイをしてもらった。その後、ロールプレイを録画したビデオを再生しながら演技を振り返り、他の参加者やネイティブ学生、講師からフィードバックを受け、演技者は感想を述べた。講師、ネイティブ学生、アシスタント学生は、アメリカの社会文化的な背景を説明し、それに即した演技の要領を助言した。最後に、質疑応答の時間が適宜設けられた。演技者は、演じる際の態度や話題の選び方などの助言を自由に取り入れて、2回目の演技を行い、さらにフィードバックが行われる。

測定としては、各スキル学習の終了ごとに、1回目と2回目の自分の演技の違い、2回目の演技で意識したこと、次回への意欲や心構えの自由記述を求めた。初日の終了時には、振り返りの時間を設けて感想を募った。

記録は、教室の前後から2台のビデオカメラで撮影して行い、後に逐語録を作成した。

## 【結果と考察】

表3から表19に、セッションの記録を示す。ロールプレイの対話は一回目と二回目に分け、フィードバックは〈感想〉〈コメント〉〈アドバイス〉の3種類に整理した。「質疑応答」があれば、問いの概略も記した。

以下の記録では、「N」はネイティブの学生、「T1」と「T2」は講師の第一筆者と第二筆者、「T」は講師両名、「A」はアシスタントの学生、「J」は参加者である。対話記録では、文法などの誤りは修正せずに記した。対話は、セッション当日の発言の順にならって記載した。固有名詞やプライベートにかかわる部分は、X(人名)、Y(地名、店名)、Z(書名、映画名)に、適宜記号化して示した。

### (1) スキル1 自己紹介する・聞く態度(笑顔・アイコンタクト)

1回目の演技(表3)では、名前の意味(S17)や呼び方(S15)、趣味(S16、S18)の話を出して、初対面の相手に自分を印象付けようと努めている。続くネイティブの見本例では、発音や流暢さに圧倒されている(表4)。高濱・田中(2009b)にならって、フィードバックを①全体的評価、②参加者の印象、③表現の仕方、④非言語的要素に4分類したところ、コメント数は合計11個で、①全体的評価(N3「うまい」など)、③表現の仕方(J5、N2「具体的」など)、④非言語的要素(J1「笑顔がよい」など)がみられた。

表3 スキル1・ロールプレイ1回目の対話

S16: Hello, my name is X. I am third grade in Y University. And...my hobby is playing the piano, and I belong to the live music club, and I like dogs. I have many dachshunds. Thank you!

S17: Hello, my name is X. I'm from Y in Japan. X means... X means good friend, and X means grace. My parents gave this name... My hobby is reading books. These days,



## 米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習

I read Z, but I have never read the new one, so don't say the last of the book! Thank you.

S18: Hello, my name is X. I came from Y University. My hobby is playing tennis and watching soccer game. I'm looking forward to studying. Thank you.

S15: Hello, my name is X. But my friend call me 'X', so please call me 'X'. The name X is difficult to say, I think, so please call me 'X'. OK! Thank you!

N: Hello, everyone! I'm N. I'm from Y, born and raised. At home I have two majors, international studies and British literature. My hobbies are reading books and traveling. Nice to meet you.

表4 スキル1・ロールプレイ1回目のフィードバックとまとめの要約

〈感想〉

- ・ Nさんの自己紹介を見て、発音が自分と全然違う (S16)
- ・ 間を空けながら話してしまったが Nはスラスラだった (S17)
- ・ Nさんが最後に nice to meet you と言っていたのが印象的だった (S18)
- ・ Nさんの演技はキレイな発音だった (S15)
- ・ 発音は理解できるのであまり気にしないほうがいい (N)
- ・ 少しずつ話したとしてもそれは変ではない (N)
- ・ 最初と最後に挨拶をつけることはおすすめ (N)
- ・ アイコンタクトはアメリカでも必要 (N)
- ・ 自信を持つことが大切 (N)

〈コメント〉

【S16 に対して】

- ・ もし犬に興味があったら、あっと思う (S15)
- ・ かわいい (N)

【S17 に対して】

- ・ 自分の名前の由来を言うことで漢字に慣れていない現地の人に興味をわかせる (S16)
- ・ Zの話をしていておもしろい (N)

【S18 に対して】

- ・ 話すときに笑顔で、内容がまとまってよかった (S18)
- ・ 具体的にテニスを挙げたのがいい (S15)
- ・ とてもよかった (N)

【S15 に対して】

- ・呼び方を言ってもらえたので声をかけやすいなと思った (S17)
- ・日本人の名前は長くて呼びづらいので、短くして呼んでもらうようにしてもらうのがいい (S18)
- ・うまい (N)
- ・X はいいあだ名だと思う (N)

〈アドバイス〉

- ・教室の全体を見回すようにしてアイコンタクトをとる (T1)

2 回目の演技では (表 5)、S16 は内容に変化をつけており、S17 は聞き手を意識して “Did you see that one?” を新たに盛り込んだ。S15 は説明が詳しくなり、発話量が増えた。フィードバックのコメント (表 6) は計 12 個で、① 全体的評価 (N1 「分かりやすい」など)、③ 表現の仕方 (J5、N3 「ユーモアがある」など)、④ 非言語的要素 (J1、T2 「アイコンタクトがよい」など) があり、表現方法を高く評価したものが多い。アサーションとは何かという質問が出ており、アメリカで重視する概念として説明された文化行動を、具体的行為に引きつけて理解しようとしていた。

表 5 スキル 1・ロールプレイ 2 回目の対話

S16: Hi, everyone. My name is X. I'm Y University student. My name 'X' is same name comic books in Japan, 'X', you know? And it's easy for you to remember, so please call me X. Thank you.

S17: Hello, everyone. My name is X. I'm from Y in Japan. My name X means good friends, and X means grace. I watch the movie 'X'. Did you see that one? If you like movies, please tell me about that. Thank you.

S18: Hello, everyone. My name is X. I came from Y University. My major is law. My hobby is playing tennis and watching soccer game. Nice to meet you.

S15: Hello, everyone. My name is X. Please call me X. I like sports. Baseball and soccer and judo and many many sports, I like. I like music, too. I like jazz music, especially. So please talk with me about sports or jazz music. Nice to meet you.

表6 スキル1・ロールプレイ2回目のフィードバックとまとめの要約

〈感想〉

- ・聞いている態度にも余裕が感じられてよかった (T1)
- ・どんな話題を出すのかで印象を左右する。英語だけではない (T2)
- ・他の人が自己紹介しているときもしっかりアイコンタクトをとるようにする (T1)

〈コメント〉

【S16 に対して】

- ・名前の由来に驚いた (S18)
- ・漫画の話とかいろいろ広がっていきそうだからよかった (S17)
- ・コミックの話とかはユーモアがあっておもしろい (N)
- ・表情がすごくよかった (T1)
- ・聞く人の態度がよかった (T1)

【S17 に対して】

- ・最後に映画の話をして話したい気持ちになった (S16)
- ・話し方がすごくわかりやすかった (N)

【S18 に対して】

- ・前回よりも視線の配り方がよかった (S15)
- ・専攻がよくわからなかった (N)

【S15 に対して】

- ・スポーツだけじゃなくて、音楽の話も出てきたのでいろいろ広げていけそう (S17)
- ・柔道とかは海外の人も興味があると思うのでいい (S18)
- ・スポーツと音楽の話はいいと思う (N)

〈質疑応答〉

- ・アサーションとは何か？

## (2) スキル3 友人を作る

1回目の演技では、服をほめたり (S18)、映画の話題を出したり (S17、S16)、援助を求めたりして (S15)、自らの話のきっかけを提供しながら、友人になるための接近を試みている (表7)。フィードバック (表8) は合計8個あり、① 全体的評価 (J1、T1「自然」など)、② 参加者の印象 (J2、N1「楽しそう」など)、③ 表現の仕方 (J2、N1「話題がよい」など) がある。

〈アドバイス〉では、会話の始め方、話題の選び方、積極的な態度の期待などが助言され、主体的な発信が励まされている。

表7 スキル3・ロールプレイ1回目の対話

S15: Hello!  
N: Hi!  
S15: My name is X. Please call me X.  
N: Hello, X.  
S15: Um, I have a question. This class, I can't understand the pronunciation, 'the.' I can't understand the difference from 'the'. Please teach me. \*<sup>1</sup>  
N: Yeah. I can't either.  
S15: Really?  
N: This teacher, this teacher, she's really hard to understand.  
S15: Please teach me.  
N: OK, what do you want to know?  
S15: 'The' ...how can I pronounce?  
N: The, like the car.  
S15: THE is OK?  
N: Yeah! That's right.  
S15: Oh, thank you.  
N: Yeah, anytime.  
S15: Nice to meet you!

S18: Hello!  
N: Hi!  
S18: Your dress is very cute!  
N: I bought it in Y (州名). Do you know Y?  
S18: No... (沈黙)  
N: It's a state. Thank you.  
S18: Thank you, nice to meet you!

S17: Hello!  
N: Hello!  
S17: I'm X. Can I talk with you now?  
N: Yeah!  
S17: I want to... I want to be friends...with you.  
N: Really?

S17: Do you like movie?

N: Yeah.

S17: Oh! Recently, did you watch any movie?

N: Yeah, I watched the new Z.

S17: Oh! New one? I didn't see!

N: You should, it's really good.

S17: Oh, I'll watch. Nice to meet you.

N: Nice to meet you, too.

S16: Hello!

N: Hi!

S16: My name is X. Nice to meet you.

N: Nice to meet you, too.

S16: Ummm... I heard you like movie?

N: Yeah!

S16: So I love movie, too. And I've never been to movie theater in America, so I can't understand, I don't know how to pay and enter, so please tell me.

N: Why don't we go together?

S16: ... (沈黙)

N: Why don't we go together?

S16: OK? So when...Do you have time today?

N: Yes. My classes are over three.

S16: So, shall we go movie?

N: Sure. Let's go.

※1 S15の発言は、英語の定冠詞 the の発音の仕方が分からない、ということの意味していた。

**表8** スキル3・ロールプレイ1回目のフィードバックとまとめの要約

〈感想〉

・服を褒めたりすることはよくあることなのでいい方法だと思う (A)

〈コメント〉

【S15 に対して】

・ボディランゲージとかが入っていてとても楽しそうだった (S17)

・楽しかった (N)

【S18 に対して】

- ・服を話題にするとかは話のきっかけになると思った (S16)
- ・褒めるというのはいいいアイテムである (T2)

【S17 に対して】

- ・質問だけではなくて自分から話しかけていてよかった (S16)
- ・映画は比較的ポピュラーな話題 (N)

【S16 に対して】

- ・丁寧と話しかけていて、話しかけられた人も答えやすい質問だった (S18)
- ・話しかけ方が自然だなと思った (S17)

〈アドバイス〉

- ・話をするときに、質問しすぎないことが大切 (T1)
- ・関係の開始は自分から積極的に (T2)
- ・ちょっとしたおしゃべりでアプローチすることが大切 (T2)
- ・クラスのこと、天気のこと、身の回りのことから話題を広げることができる (N)
- ・日本人の学生が話すようなスモールチャットで大丈夫 (T2)
- ・おしゃべりを成立させることが大切。メールアドレスを聞くこともいい (T2)

2 回目の演技では、3 名 (S15、S16、S17) が新しい話題に挑戦し、S18 は内容をふくらませており、発話が止まる部分がみられなくなった。ネイティブ学生は、「ナチュラル」で「アイコンタクトもよかった」と評価した (表 10)。他の参加者のコメントは合計 5 個で、① 全体的評価 (J3 「自然な感じ」など)、② 参加者の印象 (J1 「印象がよい」)、③ 表現の仕方 (J1 「ネタが自然でよい」など) で、全体的な印象や総合的な効果が注目されている。

表 9 スキル 3・ロールプレイ 2 回目の対話

S15: Excuse me.

N: Hi!

S15: Hi! Do you have time now?

N: Yeah.

S15: I have a question. I and My friends are going to go to concert. Here I heard many concerts is there in this city. We know the place, but we don't know the time. The time, when? Do you know when the concert?

N: Yeah, I think it's like, doors open at six but it starts at six thirty.

S15: Thank you. Will you go?

米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習

N: Yeah, I think I'm going to go.

S15: Who will you go with?

N: Uh, one of my friends is going to go, so I think I'm going to go.

S15: Can we go with you?

N: Yeah. How many are you?

S15: Three!

N: Yeah, we can all go together.

S15: Thank you! My name is X.

N: Nice to meet you!

S15: Nice to meet you. See you.

S18: Hello!

N: Hello!

S18: Your dress is very cute! Where did you get it?

N: In a store called X.

S18: I'm an exchange student, so I don't know this town. Can I go to fashionable store in this town?

N: Yeah! If you have time this weekend, we can go shopping.

S18: Thank you. Nice to meet you.

N: Nice to meet you, too.

S17: Hello!

N: Hello.

S17: I'm X. Can I talk with you now?

N: Sure.

S17: I'm a exchange student. Do you know the good place to visit in this town?

N: Yeah. I lived here my entire life, so yeah, I know.

S17: If you have time, can I go with you?

N: Yeah. Sure. I've got time in this weekend.

S17: Thank you.

N: Yeah.

S17: I want to go. Nice to meet you.

N: Nice to meet you, too.

S16: Hi!

N: Hello!

S16: My name is X. I came from Japan. Your hair style is very good.

N: Thank you.

S16: I want to cut like you, so I want to know, I want to go to your salon.

N: Yes.

S16: Where did you go?

N: My hair dresser is private, she does it at a little office, but I can give you her number and you can call her.

S16: Is it far from here?

N: It's pretty far. You probably need a car.

S16: OK. Thank you. Please tell me her number.

表10 スキル3・ロールプレイ2回目のフィードバックとまとめの要約

〈感想〉

- ・話題がナチュラルで、内容もよりナチュラルだった (N)
- ・アイコンタクトもよかった (N)

〈コメント〉

【S15 に対して】

- ・ぼんぼんと話が進んでいてよかった (S17)
- ・相手の反応を見ながら進めていたのでよかった (S18)

【S18 に対して】

- ・ネタが自然でよかった (S15)

【S17 に対して】

- ・自然な感じでよかった (S16)

【S16 に対して】

- ・全体的に印象がすごくいいと思った (S15)

スキル3の学習後、初日の最後の振り返り(表11)では、S16以外の参加者3名は緊張したと述べた。S18とS15はこの学習機会が有意義だったと感じ、S16は学びの意欲、S17は学習形態への慣れを語った。助言では、対話に臨む姿勢が説明され、アシスタント学生は自分の留学経験に言及した。



表 11 一日目全体を振り返っての参加者所感および

講師・ネイティブ学生・アシスタント学生からのアドバイスの要約

〈初日全体を振り返っての所感〉

・2時間だけだったが、初めてこうやってビデオで自分の話しているところを見て、留学先のことを考えて、いろいろなシチュエーションに慣れて行きたいと思った。(S16)

・4回とも短い会話でもそれぞれ緊張したが、徐々に慣れてきた。(S17)

・人前で話す機会がほとんどないので、緊張したが頑張れてよかった。(S18)

・とても緊張したが勉強になった。やはり客観的に自分を見るといいと思った。(S15)

〈アドバイス〉

・緊張しすぎてなにも喋らない方がだめで、何か喋ったほうがいい。神経質になりすぎてはだめ。(N)

・自信のある感じを大事にする。相手とわかりあいたいという姿勢が大事。(T2)

・コミュニケーションは添削ではないから、意思が伝われば機能している。分かり合うことが大事だから、人と人の対話を楽しんで欲しいと思う。(T2)

・留学で私が頑張ったことは、とにかく自分から話しかけて友達を作ったこと。留学生同士でもアメリカの大学でも、その場に居た人等ともしゃべって、話題を出していた。自分が英語を必死に聞いて理解しようと思っているのと同様、相手の人も私の英語を理解してくれようとするから、案外自分が考えていたほど会話は難しいものではないし、そこまで心配しなくても大丈夫だと思う。今日の様子では、皆言いたいことをそれぞれ伝えようとし、相手の反応を見るのもできていたから、大丈夫だと思った。(A)

・自分はこのような学習方法を試したことがなかったので、とても面白いと思った。自分がやっているところを見ることはないの、自分もやったら落ち込むかもしれない。(A)

### (3) スキル7 交渉する

2日目の最初に学んだスキル7では(表12)、S18とS17は壊れた商品の交換を望み、S15は返金を望む姿勢で対話している。だがS16は状況説明にとどまり、要望を明確に述べられていない。

フィードバック(表13)では、3名が「難しかった」「大変だった」と述べたが、S16は「昨日よりは簡単だった」と述べた。コメント数は合計10個で、①全体的評価(J3、N1、T1「スムーズ」など)、②参加者の印象

(N2「自信がある」など)、③表現の仕方(J1)、④非言語的要素(J1、N1「笑顔」など)がみられた。講師からは、理由や希望を明確に表現することが勧められ、準備が重要だと説明された。ネイティブからは、希望を伝えるために必要なキーワード(返金)が紹介された。

表12 スキル7・ロールプレイ1回目の対話

S18: I was bought. This pen was...is...broken?

N: Oh, is it? Doesn't it write?

S18: Yeas. Could you exchange with new one?

N: Yes, of course.

S18: Thank you.

N: You're welcome.

S17: Excuse me.

N: Yes, may I help you?

S17: I bought this pen two days ago. But I can't use it. Can change it another one?

N: Yes. Do you have your receipt?

S17: Yes.

N: Thank you. OK. All right.

S17: Thank you!

S16: Excuse me.

N: Hi! Can I help you?

S16: Yesterday, I bought this pen. But this doesn't work.

N: Oh, it doesn't? Do you have your receipt?

S16: Sorry, I don't.

N: Oh, I can't exchange it.

S16: Here you are.

N: Okay.

S15: Excuse me.

N: Hi, can I help you?

S15: Yeah, I bought this ball point pen two days ago, but I can't write like this. Could you pay back money?

N: Oh, yes. Do you have a receipt?

S15: Yes.

N: Alright, exchange. OK, here you are.

S15: Thank you.

**表 13** スキル 7・ロールプレイ 1 回目のフィードバックとまとめの要約

〈感想〉

- ・表現の仕方が難しかった (S18)
- ・「インクがでない」を何とってよいかわからなかったの、思いついたことを言わなければならず大変だった。(S17)
- ・昨日よりは簡単だった (S16)
- ・英語で交渉したことはないの、大変だった (S15)

〈コメント〉

【S18 に対して】

- ・どうやってやるのかと参考にした。最初の Excuse me はすごく参考になった (S15)
- ・スマイルは必ずしも必要ではない。でも感じはいい (N)

【S17 に対して】

- ・自然にできていてよかった (S18)
- ・とてもスムーズだった (N)

【S16 に対して】

- ・相変わらず笑顔がよかった (S15)
- ・レシートもってないとだめかもしれない (N)
- ・だめだといわれても諦めないところがいい (T1)

【S15 に対して】

- ・自然な感じでしたごくよかった (S17)
- ・みんなと違うバージョンでよかった (S18)
- ・Confident な感じでしたごく良かった (N)

〈アドバイス〉

- ・状況をお店の人に伝えることが大切。希望・理由を明確に挙げるのが大切 (T1, T2)
- ・準備をしてから臨むことが大事 (T1, T2)
- ・Refund (返金) はいいキーワード (N)

2 回目の演技 (表 14) では、アドバイスを取り入れて、返金か交換かという自分の希望や状況の表現がみられる。S16 は 2 回目のほうがスムーズに

できたと述べ、S15は難しくなくなったと述べた(表15)。コメント数は合計7個で、②参加者の印象(J2、N1、T1「Thank youの感じがとてもよい」など)、③表現の仕方(J1「説明がよい」)、④非言語的要素:N1「うまく目が合っていた」)がみられた。

表14 スキル7・ロールプレイ2回目の対話

S18: Excuse me.

N: Hi. Can I help you?

S18: Yesterday, I was bought this pen. But this pen has a problem. Can I exchange with a new one?

N: Yes, can I see your receipt?

S18: Yes.

N: OK.

S18: Thank you.

N: You're welcome.

S17: Excuse me.

N: Hi, may I help you?

S17: I bought it two days ago, but it has a problem. It doesn't work well, so can I exchange it for new one?

N: Yes, do you have your receipt?

S17: Yes.

N: OK, here's new one.

S17: Thank you.

N: You're welcome.

S16: Excuse me.

N: Hi, can I help you?

S16: Two days ago, I bought this pen, but it doesn't work. Can I get refund?

N: Yes, do you have your receipt?

S16: Yes.

N: OK, here you go.

S16: Thank you.

N: You're welcome.

S15: Excuse me.

米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習

N: Hi, how can I help you?

S15: Yeah, I bought this ball point pen two days ago, but this doesn't work. Could you exchange new one?

N: Yeah, Do you have your receipt?

S15: Oh, here you are.

N: Alright, here you go.

S15: Thank you.

N: You're welcome.

**表 15** スキル7・ロールプレイ 2 回目のフィードバックとまとめの要約

〈感想〉

- ・使いやすい表現をちょっと覚えられたのでよかった (S17)
- ・一回目はどういったらいいかわからなかったが、二回目はスムーズにいった (S16)
- ・お友達作りよりも簡単だった (S15)

〈コメント〉

【S18 に対して】

- ・交換の説明がよかった (S15)
- ・説明がよくできていた。Excuse me ではじめてもいいし、Ah..... でもいいと思う (N)

【S17 に対して】

- ・笑顔と一緒に気持ちを感じられてよかった (S18)
- ・最後の Thank you の感じがとても良かった (N)

【S16 に対して】

- ・コンフィデントだったと思う (S15)

【S15 に対して】

- ・確認したいときにうまく目があっていた (N)
- ・チャレンジ精神はいい (T2)

〈アドバイス〉

- ・現実にアメリカに行ったときはこういうこともあるかもしれないので、きちんとポイントをおさえて店員に伝えることが大切 (T1)

**(4) スキル 11 語学のハンディを持って話す**

1 回目の対話 (表 16) では、S15 は “Please speak more slowly.” と一度は

言いながらも、最後には “I’ll give up. See you!” と会話の継続を断念して立ち去った。S16は交渉する前に “OK, I’ll buy this.” と応じた。S17とS18は、意向は伝えても、詳しい値段は質問できていない。フィードバック(表17)では、ネイティブが、実際はさらに難しい内容の発言になると指摘した。コメントは合計10個で、①全体的評価(N3「とてもよい」など)、②参加者の印象(J1「落ち着いている」)、③表現の仕方(J5、N1「具体的」など)がある。契約時の心構えや質問の重要性が助言されたが、質疑では2名が具体的な尋ね方や金融機関の手続きを質問しており、渡航後の生活イメージを持ちながら、スキルの使用を想定して学んでいる。

表16 スキル11・ロールプレイ1回目の対話

S15: Excuse me.

N: Hi, how can I help you?

S15: I want to buy a cellular phone here.

N: OK.

S15: I...I am a exchange student, so I want to use...for two months.

N: OK, that’s pretty short. Here at Y (店名) we can help you. Please fill out this form.

S15: How much does it cost to talk with my friend here?

N: 30 cents...Sign, sign.

S15: Wait! Please speak more slowly. How can I pay direct?

N: We usually do it by mail.

S15: I want to pay directly! OK?

N: Here? Do you have your bank account?

S15: No.

N: Well, I don’t know if you could have a cell phone.

S15: OK, I’ll give up. See you!

S16: Hi.

N: Hi, how can I help you?

S16: I want to buy cell phone. I came here two days ago and I’m Japanese so I don’t speak English well.

N: That’s fine! How long are you staying in America?

S16: Two months.

N: That’s pretty short. So it might be more expensive. Let’s take a look. For two

米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習

month contract...What kind of phone do you want?

S16: I want to use internet.

N: Okay, that would be a little more expensive. Here. Take a look at this. What do you think?

S16: How much is it?

N: Well, for two months you're now eligible for the free phone because that only comes with the two year contract so the phone itself is about 300 dollars.

S16: A month?

N: The phone. And your service would be...Do you want to have long distance? Do you want to call Japan or someone else in America?

S16: No.

N: Just local? OK, it would be about...fifty dollars a month.

S16: OK, I'll buy this.

N: OK? Please sign this contract. Thank you for shopping here at Y. Please enjoy your new cellphone.

S17: Excuse me.

N: Hi, how can I help you?

S17: I want to buy cell phone. I'm an exchange student, so I want to use the cell phone for two months. What kind cell phone do you have?

N: We have all kinds, here at Y (店名). Would you like a basic model or do you want one with internet, tv, and?

S17: I want to call and send e-mails, so I don't need internet.

N: OK, I think the e-mail feature only come with internet cell phone, but...Here take a look at this model.

S17: How much does it cost a month?

N: With local service...About 50 dollars a month.

S17: I see, OK. I'll buy it.

N: OK. Please sign this contract.

S17: Here you are.

N: Thank you.

S17: Thank you.

S18: Excuse me.

N: Hi! Thank you for shopping here at Y (店名). How can I help you?

S18: I want to buy cell phone. I'm a exchange student. I want to use for 5 months.

N: 5 months? Okay. What kind of cell phone would you like?

- S18: I want to talk with my family in Japan.  
N: Here, so long distance. Why don't you look at a couple of these models...of cell-phones. What do you think?  
S18: How much?  
N: It would be about with long distance, 70 dollars per month. OK?  
S18: OK!  
N: OK? Cell phone would be about half off...so you have to pay 150 dollars for cell phone plus 70 dollars a month. Is that OK?  
S18: Please speak slowly.  
N: Oh, I'm sorry. With the 5 month contract, the cell phone would be 150 dollars. And your monthly fee would be about 70 dollars.  
S18: OK.  
N: Please sign this contract.  
S18: Here you are.  
N: Thank you for traveling for Y (店名). Please use this cell phone.  
S18: Thank you.

表 17 スキル 11・ロールプレイ 1 回目のフィードバックとまとめの要約  
(感想)

- ・もっと実際は難しいことを言ってくる (N)

(コメント)

**【S15 に対して】**

- ・ちゃんと会話ができていてすごいなと思った (S18)
- ・お金の払い方といった深いところまでちゃんと質問していてすごいと思った (S17)
- ・わかりやすかった (N)

**【S16 に対して】**

- ・具体的に自分のことを話し、英語があまり話せないことを伝えてよかった (S18)
- ・必要な情報を交換していてよかったと思う (S17)
- ・とてもよかった (N)

**【S17 に対して】**

- ・ちゃんと答えをスムーズに言っていてよかった (S15)
- ・今の携帯は高いのに契約してしまった (N)

**【S18 に対して】**

- ・ゆっくり落ち着いて話していてよかった (S15)
- ・ゆっくり話すように要求したことがよかった (N)



## 米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習

### 〈アドバイス〉

- ・相手が言っていることがよくわからない場合は、1回止めたり、ゆっくり話して下さいと言ったりしたほうがいい(T)
- ・話の要点を紙に書くのもいいかもしれない(T)
- ・契約内容はよく理解してからサインする(T)
- ・最初に自分の属性を相手に話す(T)
- ・Useful expression を最初のうちは使用する(T)
- ・どんな表現を使用しても相手が言っていることをきちんと確認する(T)
- ・言葉のハンディはあっても意思疎通はできる(T)
- ・質問することは本当に大事(T)

### 〈質疑応答〉

- ・お金の払い方についてする質問の仕方がわからない(S15)
- ・クレジットと口座はどこで作るのか(S17)

2回目の演技(表18)では、S15は会話をあきらめずに続けており、クレジットカードで払いたい旨も伝えた。S16は、初めにプリペイド式の携帯電話がほしいと述べ、さらに安い電話がほしいと明言できた。S17とS18は、一回目演技でも要望を伝えられていたが、S17は値段に関する質問を加えられて、S18は最も安いプランの説明を求めることができおり、その購入に成功した対話となっている。フィードバックでは(表19)、S15とS16が慣れを述べた。コメントは合計7個で、全て③表現の仕方(J5、N2「2回値切っていてよい」など)である。講師はハンディを克服する心構えを説明し、アシスタントはアサーションの重要性を強調した。

表18 スキル11・ロールプレイ2回目の対話

S15: Hello!

N: Hello! Welcome to Y (店名). How can I help you?

S15: I want to buy a cell phone. I'm an exchange student. I will stay here for two months.

N: Only two months? What kind of phone are you looking for?

S15: I want to talk with friends here, and I want the cheapest one!

N: The cheapest one? OK. For local service, and the basic model for the two month contract we have this phone.

S15: ... (沈黙)

N: Which is about 150 dollars. And your monthly fee would be...for local service would be about 50 dollars.

S15: OK.

N: Please sign this contract.

S15: Can I pay this card?

N: Yes, absolutely.

S15: OK.

N: Will you sign this receipt?

S15: OK.

N: OK, thank you. Thank you for shopping at Y (店名), have a nice day!

S15: Thank you.

S16: Excuse me.

N: Hello, thank you for shopping at Y, how can I help you?

S16: I want to buy a cell phone and I'm Japanese. I'm staying here about two months and I want to buy prepaid phone.

N: Prepaid one? OK. How many minutes per month do you want? Like 100 minutes? 200 minutes?

S16: More.

N: More? How about 500 minutes?

S16: OK.

N: For prepaid phone for two months? For 500 minutes a month, it would come to about 40 dollars a month.

S16: Please more cheap one.

N: OK. With 400 minutes a month it would be 45 a month.

S16: Is it the cheapest?

N: Yeah, it's the cheapest one.

S16: OK.

N: All right, please sign this contract.

S16: Here you are.

N: All right, here's your cell phone. Thank you for shopping at Y (店名)! Have a nice day!

S16: Thank you.

S17: Excuse me.

N: Hi! Thank you for shopping at Y (店名)! How may I help you?

米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習

S17: I want to buy prepaid type. I'm an exchange student, so I want to use it for two months.

N: OK, how many minutes do you want a month...

S17: 100 minutes.

N: 100 minutes? Okay. For two months?

S17: Yes.

N: It looks like for two months with 100 minutes per month, it would come out to about 30 dollars per month.

S17: Is it the cheapest one?

N: Yes.

S17: I'll buy it.

N: OK. Please sign this contract.

S17: ... (沈黙)

N: All right, here's your phone. Thank you.

S18: Excuse me.

N: Oh, thank you for shopping at Y. How may I help you?

S18: I want to buy a cell phone. I'm an exchange student, so I want to use it for five months.

N: Five months? OK. What kind of phone would you like?

S18: I want prepaid one.

N: OK, you want to talk more and use e-mails? How many minutes per month?

S18: 200 minutes.

N: OK. Do you want internet?

S18: No.

N: Do you want to use e-mail?

S18: Yes.

N: You need internet. So with internet and local calls, it would come to about...do you want to call Japan? Okay so with international also for about 5 months, it would come out to about 50 dollars per month.

S18: Please explain the cheapest plan.

N: Well, okay, with internet and international call, it would be more expensive. If we give you the cheapest model, I think we can bring it down to about 35 dollars.

S18: OK.

N: Please sign this contract.

S18: ... (沈黙)

N: Here's your phone, thank you. Have a nice day!

S18: Thank you.

**表 19** スキル 11・ロールプレイ 2 回目のフィードバックとまとめの要約  
(感想)

- ・一回目よりは平気 (S15)
- ・慣れた (S16)

(コメント)

**【S15 に対して】**

- ・支払い方まできちんとできていてよかった (S17)
- ・クレジットカードのところが自然だった (N)

**【S16 に対して】**

- ・ねぎっているのがよかった (S15)
- ・二回ねぎるのが積極的だった (S18)

**【S17 に対して】**

- ・わからないところは徹底的に聞いていた (S16)

**【S18 に対して】**

- ・全体的に要求ができていてよかった (S15)
- ・一番安いプランを求めているよかった (N)

(アドバイス)

- ・英語が下手だからだめとは思わない (T2)
- ・気後れしてはいけない (T2)
- ・手持ちのカードを使うだけ (T2)
- ・文化の差をちゃんと認識する、その上で交流する (T2)
- ・日本では主張することはずうずうしく思うかもしれないが、アメリカでは主張することが大切 (A)

### **【総合考察】**

本稿では、対話記録から参加者の反応が生み出された過程を考察すること、セッション効果とその機序を探ること、セッションの内容と構成を吟味することが目的であった。

まず参加者の反応とセッションの効果についてだが、参加者は模擬体験と振り返りを繰り返す中で、能動的な工夫を加え、文化行動について演技

を通じて理解し、自分のパフォーマンスの向上を感じていった。この心理教育では、具体的な行為自体が学習を形作るが、教室場面での演技ゆえに、緊張や違和感、気後れなども生じていた。だが助言を受けた後の2回目の演技では、より慣れていき、スキルを使って自然で好感度の高い演技をみせるようになった。別報では、2回目には自信や落ち着きをもって学習したという彼らの記述が報告されている(高濱・田中、2010)。彼らにとっては、アメリカでの語学研修に先だって、現地における異文化コミュニケーションの予行ができる、模擬演習の機会が得られたといえよう。

ネイティブ学生は、演技に使える情報を提供してはいるが、細かい文法上の誤りを修正する発言はなく、全体的な印象に言及したものが多かった。参加者がホストに与える印象を説明したり、非言語的要素に注目して評価したりしており、ミクロではなくマクロな視点の評価が伝えられている。

マレービアン(1986)の調査では、非言語的伝達手段の伝えるメッセージ量は、言語的伝達手段をはるかに上回り、93パーセントにも及ぶとされている。対人関係形成において、対人印象を好転させる総合的な印象がどうやって生じるかを考えるなら、非言語的要素に留意した方が効果的な対応となろう。また石井ら(1997)は、日本人の外国語について、上手に外国語の単語を並べたり美しい発音をしたりするよりも、背景となる文化の影響を踏まえて、外国人とより対等な人間関係を前提とするコミュニケーション行動を身につけるようにと強調している。これは言語のみに注目せず、関係性形成に必要なことを考えていく視点を持つよう、勧めているものと考えられる。語学のハンディに気後れして発言できない場合は、語学的な誤りは避けられても、関係性形成のための対人的なアプローチの進展は見込めず、人間関係を構築しうるだけの行動は発現しない。今回のネイティブ学生が、自信や笑顔、積極的な発話を勧めていたことは、それらが関係性形成において注目されて重要な、しかし日本人学生が不得手としがちな要素だということを示唆している。

セッションの形態については、以下のように考えられる。一定の語学力を条件に選抜される交換留学生と異なり、語学研修生は語学試験の受験が

留学要件とされておらず、語学レベルにはばらつきがあった。この点で、初級スキルからはじめて、課題のこなし具合を見ながらレベルを上げていく配慮は必要とされよう。だが興味深いことに、今回新たに設定したスキル11は、言葉のハンディを抱えつつ主張・交渉するという、難易度の高い上級スキルであったにもかかわらず、明確に要望を伝えたり質問したりする効果的な対応が、彼らなりに行動化できており、社会的適切性の高い演技がみられた。この場面は先輩留学生の実体験に基づく、現実味と必要性の高いものである。演技の一回目に積極的な質問が寄せられたことから、関心の高さが伺える。難易度が高い場面でも、現実的な課題設定で、効果的なスキルが助言できれば、語学研修生でも大いに学習可能であることが確認された。現実的な課題と丁寧な助言があれば、チャレンジ的な学習が成り立つといえる。なお今回は2日間の集中日程であったが、先の断続的な長期日程と比して、特に支障はみられなかった。この点は柔軟に考えてよいだろう。

今回の1名のネイティブは有益な助言をもたらしたが、増員が計れば、さらに幅広い属性を背景に多角的な助言が得られよう。またネイティブ自身の自文化理解も、期待できるかもしれない。今回は特に重要と思われた4スキルに絞ったが、ホストファミリーや教職員の登場する場面も作成して、留学先の生活場面全般をカバーしていくことも考えたい。場面備蓄を増すことで、ニーズに合わせて学習するスキルを選択するという方式も可能になるう。

残された課題としては、セッション参加者の留学中と帰国後のスキル使用、ソーシャル・ネットワーク形成と異文化適応などとの動的な関連性を解き明かしていくことが挙げられる。交換留学生の場合は、習ったスキルを渡航先で役立てていたことが確認されているが(高濱・田中、2009c)、語学研修生における留学中や帰国後に至る長期的なインパクトは未解明である。縦断研究の手法を用いて、引き続き調査を展開していきたい。

最後に本セッションを踏まえた提言を挙げておくと、語学研修生向けには、1) アメリカ留学用のソーシャル・スキルを渡航前に学び、認知的な理解と行動レポトリーを獲得しておくこと、2) 対人関係形成と渡航後の

スキル使用への積極的な関心を養っておくこと、の二点である。語学研修生の所属する大学向けには、TOEFL等の語学試験対策のみならず、ソーシャル・スキルを学ぶ渡航前教育の機会を積極的に設けて、日本からの海外留学が充実した体験となるよう、積極的な支援を行うことを挙げておきたい。Simic-Yamashita and Tanaka (投稿中)によれば、異文化滞在者にはホストやホスト社会と距離を持つとうとうする人と溶け込もうとうする人がおり、後者の社会文化的適応が高い一方で、前者は社会的疎外感を感じやすくなるという。語学の完成度のみならず、文化的理解や対人的態度が異文化適応と滞在の質を左右するという認識のもとで、教育的な関わりのあり方を再考する必要があるだろう。滞在の質を変えうる教育的介入としての可能性を、さらに探っていきたい。

#### 引用文献

##### 和文文献

- 石井敏・久米昭元・遠山淳・平井一弘・松本茂・御堂岡潔編(1997)『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣選書。
- 平木典子(2000)『自己カウンセリングとアサーションのすすめ』金子書房。
- 高濱愛・田中共子(2009a)「アメリカ留学準備のためのソーシャル・スキル学習セッションの試み——対人関係の開始に焦点を当てて——」『留学生教育』第14号、31-37頁。
- 高濱愛・田中共子(2009b)「アメリカ留学準備のためのソーシャル・スキル学習の試み——アサーションに焦点を当てて——」『異文化間教育』30、104-110頁。
- 高濱愛・田中共子(2009c)「在米日本人留学生による滞米中のソーシャルスキル使用——留学前ソーシャルスキル学習の受講者と非受講者の場合——」『留学生交流・指導研究』11、107-118頁。
- 高濱愛・田中共子(2010)「語学研修生を対象としたアメリカン・ソーシャルスキルの学習」『静岡大学国際交流センター紀要』第4号、81-93頁。
- 田中共子(1994)『アメリカ留学ソーシャル・スキル:通じる前向き会話術』アルク。
- 田中共子・高濱愛(2008)「米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習:大学での学習場面への対応を課題とした中級セッションの記録」『岡山大学文学部紀要』第49号、31-48頁。
- 田中共子・高濱愛(2010)「米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習(2):対人関係開始場面を課題とした初級セッションの記録」『岡山大学文学部紀要』54号、55-68頁。

- 田中共子・高濱愛(2011)「米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習: アサーションを課題とした上級セッションの記録」『文化共生学研究』第10号、103-118頁。
- 古田暁監修、石井敏・岡部朗一・久米昭元(1987)『異文化コミュニケーション』有斐閣。
- マレービアン、A(西田司・津田幸男・岡本輝人・山口常夫訳)(1986)『非言語コミュニケーション』聖文社。
- 文部科学省ウェブサイト「高等教育局主要事項——平成23年度概算要求——」  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/other/\\_\\_\\_icsFiles/afieldfile/2010/09/01/1297091\\_10.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/___icsFiles/afieldfile/2010/09/01/1297091_10.pdf) (2010年10月4日閲覧)

#### 欧文文献

- Argyle, M., & Henderson, M. (1985). *The anatomy of relationships: And the rules and skills needed to manage them successfully*. London: Penguin Books.
- Simic-Yamashita, M. and Tanaka, T. Examining the effects of Japanese context and willingness to communicate on the sociocultural adjustment of international students in Japan. (under review)
- Takahama, A., Nishimura, Y. & Tanaka, T. (2008). The influence of social skills on getting social support for adolescents during study abroad: A case study of Japanese short-term exchange students. *Journal of International Student Advisors and Educators*, 10, 69-84.

#### 付記

本研究は、科学研究費補助金・萌芽研究 No. 19653099 (代表・高濱 愛) の助成を受けた。